社会資本総合整備計画（市街地整備）

バリアフリーに配慮した都市拠点整備

（第2回変更）

岐阜県　各務原市

令和元年7月

（参考様式２）社会資本総合整備計画（市街地整備）

令和元年7月17日

計画の名称	バリアフリーに配慮した都市拠点整備			重点配分対象の該当	
計画の期間	平成27年度　～　令和元年度　（5年間）	交付対象	各務原市		

計画の目標

大目標：各務原市の西の都市拠点整備
目標1：誰もが利用しやすいバリアフリーに配慮した拠点を整備する。
目標2：駅とその周辺を一体的に整備することで交通結節点としての機能向上を図る。
目標3：駅周辺施設を利用する歩行者の安全性を確保する。

計画の成果目標（定量的指標）

1. 新那加駅の利用者数・・・・・・誰もが利用しやすい駅とする。
2. バリアフリー化に対する満足度・・・・・バリアフリー化や交通結節点の改善を行うことで利用者の満足度の向上を図る。
3. 歩道整備に対する満足度・・・・・・通学児童や生徒、また駅周辺施設利用者の安全性を向上させることで利用者の満足度の向上を図る。

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値 当初現況値（H26当初）	中間目標値（H28末）	最終目標値（R1）	備考
新那加駅を利用する1日当たりの人数	3,262人/日	－	3,400人/日	
駅利用者のバリアフリーに対する満足度	37.8%	－	48%	
駅周辺の歩道整備に対する満足度	37.8%	－	48%	

全体事業費	合計（A＋B＋C＋D）	235百万円	A	235百万円（内提案事業費分4百万円）	B	0百万円	C	0百万円	D	0百万円	効果促進事業費の割合（A（提案分）＋C）／（A＋B＋C）	1.7%

交付対象事業

A　基幹事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市町村名	事業実施期間（年度） H27	H28	H29	H30	R1	全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況	備考
1-A-1	都市再生	一般	各務原市	直接	各務原市	新那加駅周辺地区都市再生整備事業	高質空間形成施設等　41.5ha	各務原市						235			
								合計						235			

B　関連社会資本整備事業（該当なし）

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容（延長・面積等）	市町村名	事業実施期間（年度） H26	H27	H28	H29	H30	全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況	備考
								合計						0			

C　効果促進事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度） H26	H27	H28	H29	H30	全体事業費（百万円）	備考
								合計						0	

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

D　社会資本整備円滑化地籍整備事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（面積等）	市町村名	事業実施期間（年度） H26	H27	H28	H29	H30	全体事業費（百万円）	備考
								合計						0	

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

交付金の執行状況

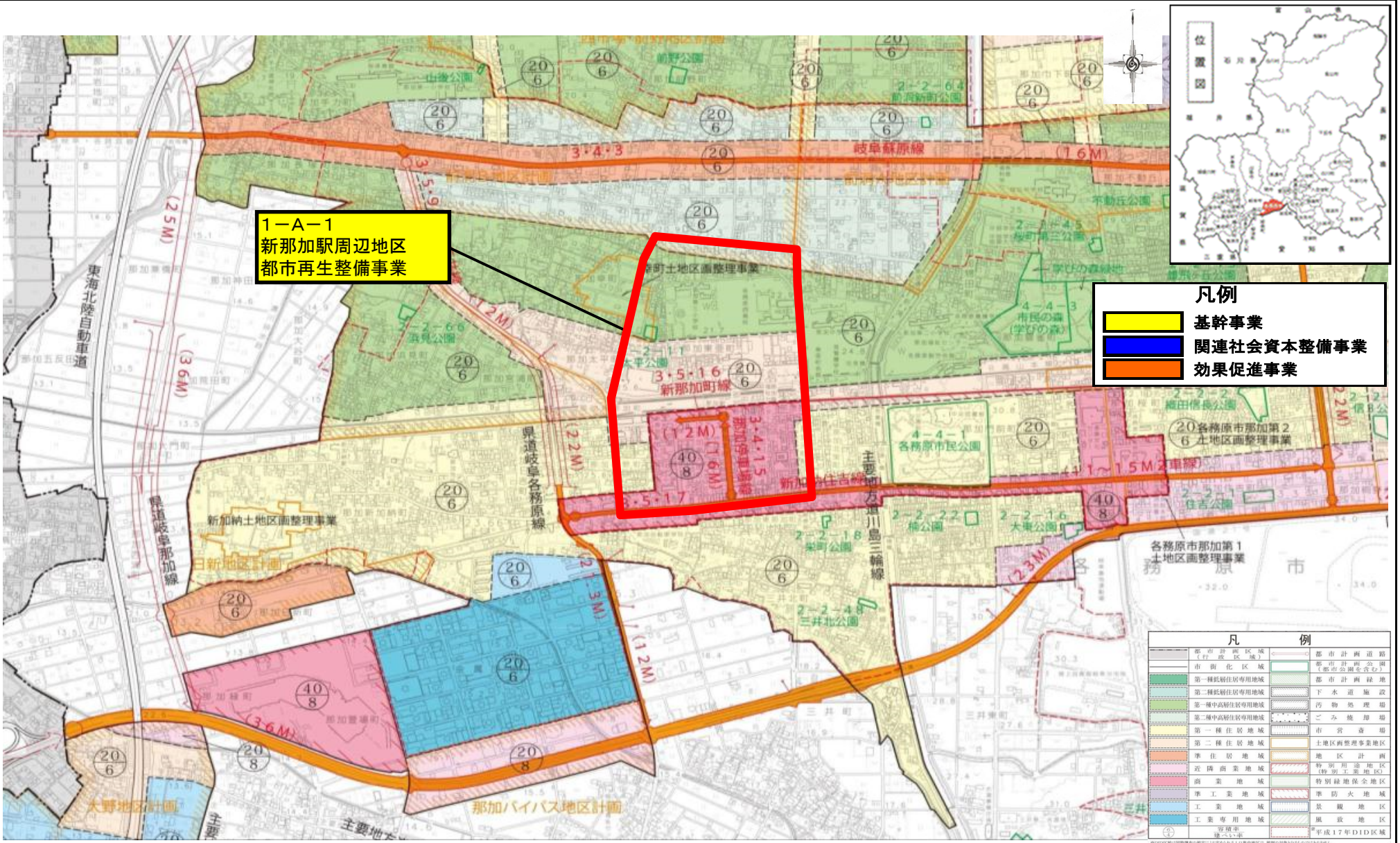
（単位：百万円）

	H27	H28	H29	H30	R1
配分額 (a)	10.9	25.3	0	39.0	3.0
計画別流用 増△減額 (b)	0	0	0	11.0	0.0
交付額 (c=a+b)	10.9	25.3	0	50.0	3.0
前年度からの繰越額 (d)	0	0	12.7	0.0	44.3
支払済額 (e)	10.9	12.6	13	5.7	-
翌年度繰越額 (f)	0	12.7	0	44.3	-
うち未契約繰越額 (g)	0	0	0	0.0	-
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0	0.0	-
未契約繰越＋不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-
未契約繰越＋不用率が10%を超えている場合その理由	-	-	-	-	-

※　平成２６年度以降の各年度の決算額を記載。

（参考図面）市街地整備

計画の名称	バリアフリーに配慮した都市拠点整備		
計画の期間	平成27年度　～　令和元年度　（5年間）	交付対象	各務原市



都市再生整備計画（第2回変更）

新那加駅周辺地区（しんなかえきしゅうへんちく）

岐阜県（ぎふけん）　各務原市（かかみがはらし）

令和元年7月

様式1　都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	岐阜県	市町村名	各務原市	地区名	新那加駅周辺地区	面積	41.5 ha

計画期間	平成　27　年度 ～ 令和 元　年度	交付期間	平成　27　年度 ～ 令和 元　年度

目標

大目標：各務原市の西の都市拠点整備
目標1：誰もが利用しやすいバリアフリーに配慮した拠点を整備する。
目標2：駅とその周辺を一体的に整備することで交通結節点としての機能向上を図る。
目標3：駅周辺施設を利用する歩行者の安全性を確保する。

目標

令和元年7月

まちづくりの経緯及び現況

名鉄新那加駅がある各務原市那加地区は、市の西部に位置し、市役所や商業施設が立地する都市の拠点となっている。当駅は、1日当たりの平均乗降客数が3000人を越え、市内に16駅ある中で4番目に利用者数の多い駅となっている。しかしながら、当駅の改札は地下に設置されており、改札およびホームへの接続は階段のみとなっていることから、車いす等の利用者が当駅を利用できない状況にある。また、駅周辺には、小中学校や高校、また病院や商店街等の各種施設があり、駅から各施設への歩行経路の安全確保も必要である。しかしながら、一部道路は歩道が設置してある路線もあるものの、歩行空間が確保されていない路線もあり、安全で快適な通行の支障となっている。これらの状況を勘案し、平成26年度には「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に基づき、当駅の周辺地区を重点整備地区に指定し、「新那加駅周辺地区バリアフリー基本構想」の策定を進めている。

課題

・1日当たり平均3,000人以上の利用者がいるものの、車いす利用者等が当駅を利用できず、高齢者や足の不自由な人にとって利用しづらい構造となっていることから、駅のバリアフリー化を図る必要がある。
・駅や周辺施設をつなぐ路線について、安全で快適な移動経路を確保するために歩行空間の形成(駅前トイレの設置を含む)を行う必要がある。
・駅周辺には小中学校および高校があることから、通学児童や生徒の安全を確保する必要がある。

将来ビジョン（中長期）

（各務原市都市計画マスタープラン）
・那加駅や新那加駅周辺と市役所周辺を含む地区は本市の拠点的商業地としての役割を果たしていることから、今後も歩道整備等のハード的な事業や商店街活性化施策等のソフト的な事業の展開により既存機能の強化・充実を図る。
・主要駅等においては、身体に障がいを持った方にも利用しやすいような構造とし、電光掲示板や音声案内等の導入に努める。
（各務原市地域福祉計画かかみがはらハートプラン）
・バリアフリーやユニバーサルデザインの視点を踏まえた施設の改修を推進する。
（かかみがはら高齢者総合プラン）
・公共施設において、段差解消やエレベーターの設置等、高齢者に配慮した施設づくりを促進する。
・高齢の歩行者に配慮した歩道を整備する。また、バリアフリー実現のために駅舎の整備改善を促進する。

目標を定量化する指標

指　標	単　位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
1.新那加駅の利用者数	人/日	新那加駅を利用する1日当たりの人数	誰もが利用しやすい駅とする。	3,262	平成25年度	3,400	令和元年度
2.バリアフリー化に対する満足度	%	駅利用者のバリアフリーに対する満足度	バリアフリー化や交通結節点の改善を行うことで利用者の満足度の向上を図る。	37.8	平成26年度	48.0	令和元年度
3.歩道整備に対する満足度	%	駅周辺の歩道整備に対する満足度	通学児童や生徒、また周辺施設利用者の安全性を向上させることで利用者の満足度の向上を図る。	37.8	平成26年度	48.0	令和元年度

様式2　都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
・誰もが利用しやすいバリアフリーに配慮した拠点を整備する。 　新那加駅は改札が地下にあり、改札およびホームへの移動は階段を利用するしかない状況にあるため、車いす利用者等は当駅を利用することが困難である。したがって、駅への移動経路のバリアフリー化を推進し、誰もが利用しやすい拠点を整備する。	■基幹事業 ・高質空間形成施設（歩行支援）：エレベーター設置 ・高質空間形成施設（歩行支援）：JR那加駅前トイレ設置
・駅とその周辺を一体的に整備することで交通結節点としての機能向上を図る。 　駅へのアクセス性や快適性の向上を図るために、周辺道路の整備やトイレの設置を行う。	■基幹事業 ・高質空間形成施設（ブロック舗装）：市道那468号線 ・高質空間形成施設（カラー舗装）：市道那472号線 ・高質空間形成施設（歩行支援）：JR那加駅前トイレ設置
・駅周辺施設を利用する歩行者の安全性を確保する。 　駅周辺の小中学校および高校に通学する児童や生徒、また、駅から病院や商業施設、自動車学校等に向かう歩行者に対する安全を確保するために、安全で快適な歩行空間を整備する。	■基幹事業 ・高質空間形成施設（ブロック舗装）：市道那468号線 ・高質空間形成施設（カラー舗装）：市道那472号線

その他

〇事業終了後の継続的なまちづくり活動

様式3　目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費	235	交付限度額	94	国費率	0.4

（金額の単位は百万円）

基幹事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比 B／C
道路															
令和元年7月															
公園															
公園(地方都市リノベーション事業)															
古都及び緑地保全事業															
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設(広場)															
地域生活基盤施設(駐車場)															
地域生活基盤施設(地域防災施設)															
地域生活基盤施設(情報板)															
高質空間形成施設(ブロック舗装)		市道那468号線	各務原市	直	L=250m	29	30	29	30	62	62	62		62	－
高質空間形成施設(カラー舗装)		市道那472号線	各務原市	直	L=220m	30	30	30	30	6	6	6		6	－
高質空間形成施設(歩行支援)		エレベーター設置	各務原市	直	N=2基	27	1	27	1	130	130	130		130	－
高質空間形成施設(歩行支援)		トイレ設置	各務原市	直	N=1箇所	27	27	27	27	33	33	33		33	－
高次都市施設															
地方都市リノベーション推進施設(教育文化施設)															
生活拠点施設															
既存建造物活用事業															
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
地区再開発事業															
バリアフリー環境整備促進事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型														
	沿道等整備型														
	密集住宅市街地整備型														
	耐震改修促進型														
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
合計										231	231	231	0	231	－

…A

提案事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
地域創造支援事業														
事業活用調査	事業効果分析調査		各務原市	直	－	1	1	1	1	4	4	4		4
まちづくり活動推進事業														
合計										4	4	4	0	4

…B

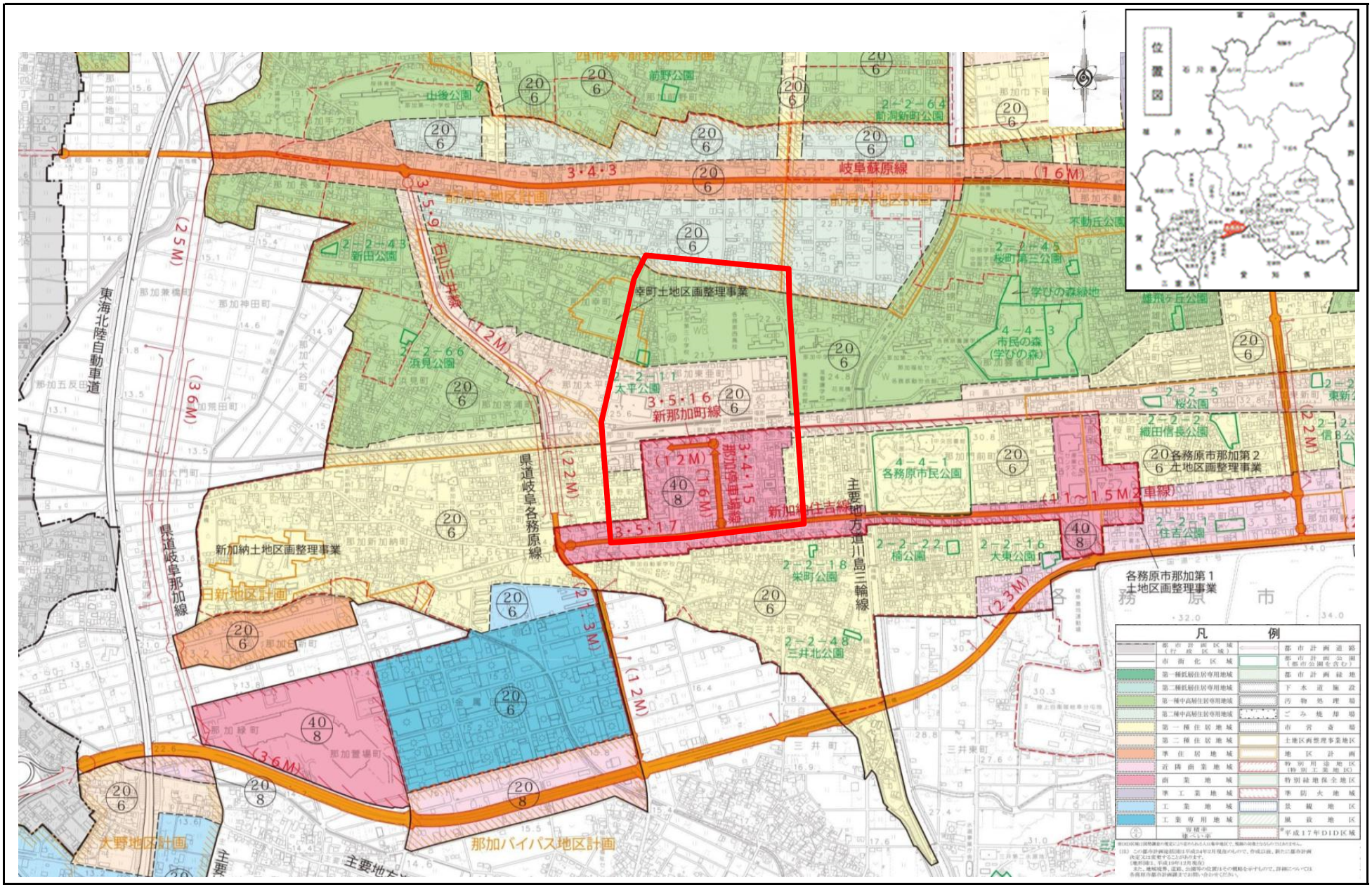
235

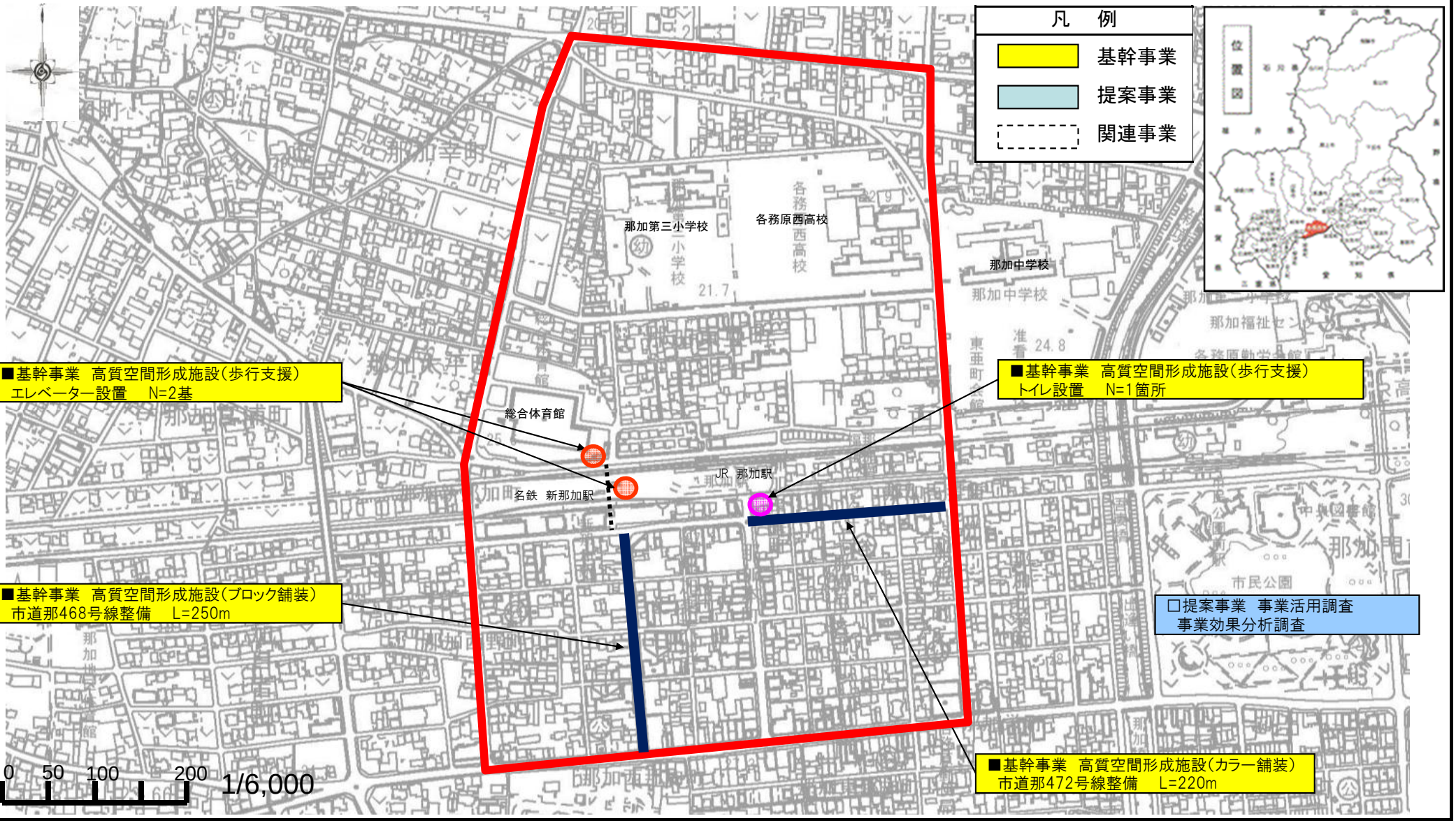
（参考）関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに○） 直轄	補助	地方単独	民間	事業期間 開始年度	事業期間 終了年度	全体事業費
エレベーター設置事業	新那加駅	名古屋鉄道(株)		N=2基				○	H27	R1	220
新那加駅周辺地区バリアフリー基本構想策定	新那加駅周辺地区	各務原市					○		H26	H26	6
合計											226

都市再生整備計画の区域

新那加駅周辺地区（岐阜県各務原市）	面積	41.5 ha	区域	新那加駅周辺地区



新那加駅周辺地区（岐阜県各務原市） 整備方針概要図

目標	各務原市の西の都市拠点整備	代表的な指標	新那加駅の利用者数 （ 人/日 ）	3,262	（H25年度）	→	3400 （令和元年度）
			バリアフリー化に対する満足度 （ % ）	37.8	（H26年度）	→	50 （令和元年度）
			歩道整備に対する満足度 （ % ）	37.8	（H26年度）	→	50 （令和元年度）